

令和8年度 第1回臨時理事会議事録

期 日：令和8年7月15日（金）18：30～20：30

会 場：岩手リハビリテーション学院, オンライン

出席者：及川龍彦 佐藤英雄 武田浩二 関 公輔 藤井祐輔 菊池賢汰
佐藤晋樹 及川 哲 野中一成 小林太志 澤口裕樹 久野純治
藤岡 求 (理事)
赤坂康志 (監事)

欠 席：三浦正徳（理事・公務の為）

書 記：菊池賢汰

報告事項

- 1, 会長行動報告（及川龍彦）
- 2, 部門代表理事業務報告（佐藤英雄・武田浩二・三浦正徳・藤井祐輔・菊池賢汰）
- 3, 日本理学療法士協会 2026 年度第 1 回組織運営協議会（及川龍彦）
- 4, 日本理学療法士協会第 55 回定時社員総会（及川龍彦）
- 5, 令和 8 年度入会オリエンテーション開催報告（菊池賢汰）
- 6, 令和 8 年度新人歓迎会開催報告（菊池賢汰）
- 7, 協会関連事業派遣報告（菊池賢汰）
- 8, 士会承認セミナー・症例検討会報告（菊池賢汰）
- 9, 会員異動状況報告（菊池賢汰）
- 10, 事務部業務報告（菊池賢汰）
- 11, 本会 HP 閲覧者数, 公式 LINE 友だち数推移およびアイピットくん LINE スタンプ販売個数（小林太志）
- 12, 各種派遣報告（武田浩二）
- 13, 2026 第 10 回いわて奥州きらめきマラソン大会メディカルスタッフ派遣事業（及川哲）
- 14, 第 73 回春季東北地区高等学校野球岩手県大会メディカルサポート事業（及川哲）
- 15, 産業保健支援事業（澤口裕樹）
- 16, ウィメンズ・メンズヘルス支援係活動（澤口裕樹）
- 17, 岩手理学療法学 Vol.18（久野純治）
- 18, 臨床研究支援セミナー（久野純治）
- 19, 第 26 回岩手県理学療法学術大会報告（久野純治）
- 20, 生涯学習前期研修報告（藤岡求）
- 21, 生涯学習後期研修（運動器士会オリジナル）事業報告（藤岡求）
- 22, 令和 8 年度新人期領域別症例検討会事業報告（藤岡求）
- 23, 令和 8 年度臨床実習指導者講習会開催予定（関公輔）

- 24, 令和 8 年度第 1 回支部長懇談会開催報告（佐藤晋樹）
- 25, 令和 8 年度支部活動一覧（佐藤晋樹）
- 26, 訪問リハビリテーション委員会委員変更（野中一成）
- 27, 訪問リハビリテーション振興財団支援報告（及川龍彦）
- 28, 政治活動報告（及川龍彦）
- 29, リハビリテーションを考える議員連盟議員加入（及川龍彦）

協議事項

第 1 号議案「岩手県理学療法士会ニュースデジタル化」承認の件

菊池理事より、岩手県理学療法士会ニュースを紙面発行からデジタル発行へ移行したいことから、承認をいただきたい旨が説明された。経緯として、物価上昇による印刷費の高騰や郵送費の値上がりが著しく、昨年度よりデジタル化移行に向けた準備を進めてきた旨が説明された。また令和 7 年度組織運営協議会においても、会員よりデジタル化によるホームページでの閲覧に関する要望も確認されたことから、紙面からデジタルへの移行期に入っている考えであることが説明された。本議案に関する検討事項は以下の通り。

○検討事項

- ・岩手県理学療法士会ニュースを第 89 号よりデジタル発行とすること
- ・岩手県理学療法士会ニュースのバックナンバーをホームページへ掲載すること
- ・ホームページの該当ページにはパスワードを付与し、会員限定のコンテンツとすること
- ・会員への発送については転送防止を目的に、ホームページの該当 URL のみ周知すること

また費用面の変化として、令和 6 年度までは年間 70～80 万円代で推移していたが、令和 7 年度からは 90 万円を越える費用を必要としており、これに加えて郵送費の高騰分が上乗せされる旨が説明された。以上の説明に対して、以下の通り質疑がなされた。

- ・デジタル化に賛成である。その上で、ホームページへ掲載する際には文字だけでなく、どのような内容が掲載されているかがわかるような工夫が必要と考える。
→サムネイル等、技術的に可能か。（及川会長）
→可能である。
- ・時代に対応している内容であり、賛成の立場である。これと併せて、関係団体へ周知する際に不都合が生じないか検討する必要があると思うが、その点はどうか。
→組織運営協議会と併催で協賛会員説明会を開催しているが、その際に 1 年分の士会

ニュースを提供している。デジタル化移行後は、印刷の上、これまで通り提供することを想定している。

- ・会員の目に入りやすいという点では、紙面のメリットもあると思う。デジタルになることで、会員の目に入りにくくなるという点は懸念される問題である。
→現在の紙面発行でも、一定の割合で確認できていない会員もいると思う。デジタルに移行後も、その傾向は変わらないのではないか。
- ・これを機に、士会ニュースを発行する意義についても、検討し直す必要があるのではないか。
- ・各理事のご意見はどれも納得がいく内容であり、紙面とデジタル双方の利点、欠点があると認識している。紙面はやや時期がずれた情報でも許容されていた側面があるが、そうであるとすれば士会ニュースが果たす役割についても検討が必要と考える。また、デジタル化に移行する方針になった場合は、会員への啓発期間を設けていただきたい。（及川会長）
- ・基本的にはデジタル化へ賛成の立場であるが、紙面で届くのも楽しみであった側面がある。本会が行っている事業等を伝えるという意味では、紙面の良さもあるのではないか。
- ・記録として残すという意味では、デジタルの良さもあるのではないか。（及川会長）
- ・紙面とデジタルについては、世代によって価値観が異なるのではないか。若い会員はデジタルに慣れている側面もあることから、その世代も考慮する必要があると考える。
- ・折衷案として、原則としてデジタル発行とし、各施設1部紙面として発行するという考えはどうか。
→紙面発行は業者に印刷を依頼するか、本会事務部で印刷の上、郵送するかによって考え方が変わってくる。業者の場合、依頼冊数が少ない場合は割高になる恐れがある。本会事務部が対応した場合、事務部の作業負担が大きくなる。（及川会長）
→所属施設では、定期発送で届いた資料を印刷し、回覧する形をとっている。士会ニュースに関しても、できる限り職場内で印刷の上、回覧いただくよう促すのも良いのではないか。
- ・ホームページ掲載時のサムネイルに関しては、業者に作成いただくことは可能か、調査しても良いのではないか。

以上の質疑をもとに、以下について承認手続きがとられた。

- 1、岩手県理学療法士会ニュースをデジタル発行とすること
- 2、デジタル発行は第90号から開始し、第89号で決定通知を出し会員へ周知すること
- 3、岩手県理学療法士会ニュースのバックナンバーをホームページへ掲載し、会員のみが閲覧できるよう最大限の配慮をすること
- 4、岩手県理学療法士会ニュースの発行目的については継続課題とすること

以上について、全会一致で承認された。

第2号議案「岩手県理学療法学術大会会期変更案」承認の件

久野理事より、岩手県理学療法学術大会の会期について、第27回大会より2日間開催としたい旨が説明された。提案されたメリットとデメリットは以下の通り。

○メリット

- ・2日間開催とすることで、参加できる会員が増える。
- ・総会があったとしても全体的にスケジュールに余裕を持たせることが出来る。
- ・スケジュールとしても余裕をもって組めるため、講演や発表内容が重複しない。
- ・レセプションなどを入れることで新人歓迎会なども兼ねて行うこともできる。
- ・新人期症例検討会や後期研修プログラムの他、標準化理学療法研修などの対面研修企画が拡充できる
- ・登録理学療法士の更新者への対応

○デメリット

- ・大会長、準備委員長の負担
- ・予算の増額

また第25回大会の決裁書を参考に試算したところ、第27回大会の予算は約1,300,000円となるが、物価高騰等の背景を考慮すると費用はさらに増額になる見込みである旨が説明された。併せて、第28回大会以降も2日間開催を原則として、大会長には企画・運営をしていただきたい旨が説明された。以上の説明に加えて、及川会長より本件は第26回大会の次期大会長挨拶でアナウンスをしているため、追認という形で協議を進めたい旨が説明された。以上の提案に対して、以下の通り質疑がなされた。

- ・大会予算の検討と併せて、次年度予算編成の段階で各所管が厳密に予算案を作成することが必要となる。近年では、結果的に黒字決算になっている現状であるため、この点も併せて対応をお願いしたい。（及川会長）
- ・現段階の予算として約1,300,000円が試算されているが、2日開催になると会場費も2倍になるため、より増額が必要なのではないか。
→担当課長には、その分も含めて試算をしていただいた。先に説明した通り、これに物価高騰の影響が入ることは否めないため、増額も含めて検討をする必要があると考えている。
- ・担当課内では、大会長、準備委員長等の労力も踏まえ、対価も含めて検討する必要が

あるという意見が出ている。

- ・ 365日診療をしている現状を鑑みると、学会に参加したくても出勤のため参加できない会員もいることが想定され、実際に当院でもそのような会員が確認されている。2日開催になれば、少なくとも1日は参加できる会員が増えることが見込まれるため、賛成である。
- ・ 担当所管の話になるが、登録理学療法士の更新者数を増やしたい思いがある。2日間開催になれば、この点にも貢献できる可能性があるので、ぜひお願いしたい。
- ・ 生涯学習ポイントに関しては、協会や連合学会もデイパスを基本として運営しているため、この点も検討してみてはどうか。（及川会長）
- ・ 若手会員を支援する取り組みとして、2日間開催が良いと思う。
- ・ 所管代表としては、県内の学術活動を高める機会を担保したいという思いがある。できる限りセッション数を増やし、多くの会員に参画していただく機会を作っていきたいと考えている。

以上の質疑をもとに、①第27回大会より2日間開催とすること、②複数年に渡り2日間開催を基本として検討をすること、について承認手続きがとられ、全会一致で承認された。

第3号議案「第47回東北理学療法学術大会長」承認の件

及川会長より、令和11年に開催される第47回東北理学療法学術大会は当県が担当になることから、大会長指名について承認いただきたい旨が説明された。本件については、担当年2年前から東北ブロック協議会理事会への報告が求められ、本県における大会長・準備委員長報告は令和9年学術大会時の理事会（9月10日）になる旨が説明された。準備委員長の指名、大会イメージの構築等本年度中の大会長指名が望ましいことから、下記人物が推薦された。

推薦者 関公輔氏（いわてリハビリテーションセンター）

上記について審議の上、承認をいただきたい旨が説明された。なお、本議案については利益相反にあたる関常務理事は一旦退席し、その他理事において審議を進める旨が説明された。関常務理事退席後、質問意見が求められたが特になく、全会一致で承認された。

第4号議案「いわてJRATとの協力体制整備案」承認の件

及川会長より、いわてJRATとの協力体制整備案について、下記の通り説明がなされた。

いわて JRAT は県内リハビリテーション関係団体・災害拠点病院から役員から構成され、年に 1 回の協議を行うとともに災害時の支援体制整備に協力することで合意している。JRAT の活動は日本理学療法士協会を含めた全国的な輪となっている現状である。

いわて JRAT は、令和 6 年度に岩手県との災害時リハビリテーション支援活動に関する協定を締結していることから、災害発生に伴い、県からの出動要請が発出された場合には速やかな対応が求められる。現状、いわて JRAT の活動はいわてリハビリテーションセンター、岩手医科大学を中心としたスタッフで賄われているが、東日本大震災級の災害が発生した場合、このシステムでは破綻が目に見えており、各職能団体への人材提供要請が求められるものとする。現状、本会内での系統立てた体制整備は行われておらず、上記の理由から昨今の地震・豪雨等の頻発を考えると本会内での体制整備を急ぐ必要があると考える。

上記の説明に加えて、体制整備案として下記が提案された。

①いわて JRAT 各級スタッフの確保 (D-スタッフ・L-スタッフ・E-スタッフ)

→HP での啓発、定期広報物の配布

②平時 JRAT 活動 (研修) の啓発

→HP での周知、JRATHP へのリンク

③災害時スタッフ提供システム

→研修受講者、各級スタッフ資格取得者の把握 → 調査実施

↓

災害時支援出動意思確認 → アンケート実施

↓

名簿作成

↓

定期更新 (年単位)

↓

災害発生

↓

本会としての対応協議

いわて JRAT との協議

↓

いわて JRAT からの派遣要請

支援協力者募集

→ 協力者が少ない場合には名簿登録者協力要請

↓

→ いわて JRAT からの所属長宛協力要請

紹介

以上の整備方針について検討の上、承認をいただきたい旨が説明された。この提案に対して、以下の通り質疑がなされた。

- ・現状、研修会を1回受講すれば永続的に更新は必要ないのか。
→現状ではそのような対応になっている。（及川会長）
- ・本会にも災害時支援対策委員会を設置しているため、何らかの役割を持たせる必要があるのではないか。
- ・人材バンクの調査で災害支援に興味を持つ会員がいることを承知している。そのような会員に参加していただくのも良いのではないか。

その他に質問・意見等なく、全会一致で承認された。

追加議案「第29回岩手県理学療法学術大会見送り」承認の件

久野理事より、第29回岩手県理学療法学術大会は第47回東北理学療法学術大会の開催年と重なることから、開催を見送りたい旨が説明された。これに対し質問・意見等なく、全会一致で承認された。